

統一したケアで機能低下を防ぐ

◆キーワード

- 1 統一したケア
- 2 生活機能の維持
- 3 PDCAサイクル

～つつじの夢での取り組みを振り返って～

都道府県・市町村名
東京都・昭島市

ふりがな にんちしょうこうれいしゃぐるーぷほーむ・ つつじのゆめ
種別・施設名 認知症高齢者グループホーム・つつじの夢

ふりがな かいごふくしし・ いりの ゆうこ
職種・発表者名：介護福祉士・入野 祐子

共同研究者名（いる場合）：
古川みゆき・薬袋三津子・渡邊紀子

認知症高齢者グループホーム つつじの夢

「グループホームつつじの夢」は、H12年7月に開設した6人1ユニットのグループホームです。

（取り組んだ課題・はじめに）

「グループホームつつじの夢」は、H12年7月に開設した6人1ユニットのグループホームです。現在、平均89.3歳（80歳～95歳）、平均要介護度3の女性の方6名が、認知症を持ちながらも自らのペースでゆったりと生活されています。職員は、常勤職員4名・日勤の非常勤職員2名・夜勤の非常勤職員1名で、日勤・夜勤の2交代で運営をしています。つつじの夢では、ご入居者の個性や意思・能力を尊重し、心身共に自立し、かつその方らしく豊かな生活を実現させる為に、認知症の進行防止・身体機能・生活能力の維持に取り組んでいます。その前提として、『認知症ケアには、“スタッフやご家族など、ご入居者に関わる全員が、共通した病状の理解と認識を持った上で、共通した目標に向けて、ご入居者に関わる全員が、統一したケアを行う事”が最も重要である』との共通認識のもと、どのようにしたら、この概念を持って、ケアを遂行し、機能維持が図れるか、開設以来、試行錯誤しながら、取り組んできました。

今回、“統一したケア”を実施する為に、PDCAのサイクルで行っている取り組み内容を振り返り、成果を検証した為、報告させていただきます。

（具体的な取り組み）

- ・ご入居者一人ひとりのケア手順を示したマニュアルの作成
- ・24時間、時系列で経過記録を記載
- ・個別マニュアルに沿った評価
- ・MDS-HCを元にし、項目を細分化したアセスメント
- ・生活に密着したケアプラン立案・実施
- ・実施頻度や様子を踏まえた毎月の評価
- ・日々のカンファレンス実施

（活動の成果と評価）

【検証方法】

今回、“認知症の進行防止”の検証方法として、入居から3か月毎のHDS-Rの推移を比較してみました。

対象としては、長期間の推移を見るため、“つつじの夢に5年以上入居された方5名”としました。

※“身体機能・生活能力の維持”としては“在籍日数”で比較しようと考えましたが、退居の理由が“グループホームでの生活が難しくなった”方ばかりではなかったため、検証方法としては妥当でない判断し、今回検証は行いませんでした。

【結果】

グラフ参照

（3名／5名中）の方が、ほぼ入居当初の点数を維持できていました。

（1名／5名中）の方が、入居3年以降の点数を6年以上維持できている事がわかりました。

（今後の課題・考察・まとめ）

これまで、私たちは、『個別のケア手順を示したマニュアル』を作成し、マニュアルに沿って“統一したケア”を提供—『24時間、時系列の経過記録』・『(マニュアルに沿った)評価(表)』を残し、それらを元にご入居者の状態を細かに『アセスメント』、ご本人の今必要としている課題を見出し、生活に密着したケアプランを立案・実施してきました。又、ケアプランの実施状況は、毎月、経過記録・評価表（記録）から、頻度や様子を拾い、目標の進捗、及び3ヶ月毎のプラン達成を評価—さらに、その評価を元に、援助方法を見直し、統一したケアの基本となっている『ケア手順マニュアル』に反映させるという方法（PDCA）で、“統一したケア”を実現してきました。今回、取り組みを振り返り、つつじの夢のご入居者が認知症の進行を防止しながら、長く、慣れた環境で楽しく生活が送られているという、喜ばしい結果を確認することができました。この結果に満足することなく、これからも、日々変わりゆく入居者の状態や、環境に合わせ、全スタッフで話し合い、ケアや業務の見直しを重ね、より心豊かに、安全で安心な生活が送れるよう、“全員が統一したケア”を提供していく所存であります。

（参考・文献など）